



1



2

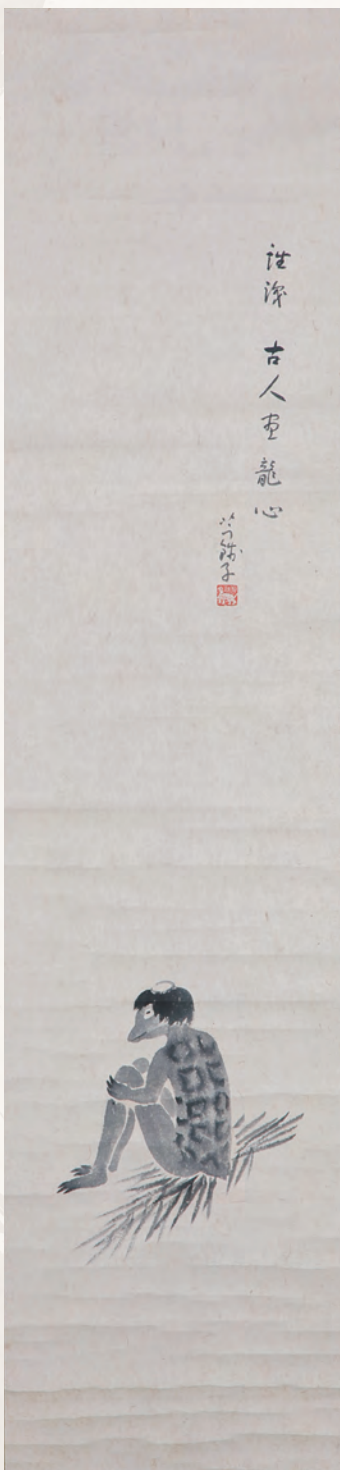


3

- | | | | |
|----------|-----------|--------|------------|
| 1. 西村 青師 | < 示現寺 > | 大正時代 | 個人蔵 |
| 2. 名取 春仙 | < 大川端 > | 不詳 | 個人蔵 |
| 3. 赤城 泰舒 | < 水辺の風景 > | 1916 年 | 個人蔵 |
| 4. 酒井 三良 | < 秋声 > | 不詳 | 個人蔵 |
| 5. 小川 芋銭 | < 河童 > | 不詳 | 喜多方蔵座敷美術館蔵 |



4



5



竹久 夢二 < 雪の夜の伝説 > 1926 年 喜多方市美術館蔵

結成から 100 年

2018 SAT
9.22 — SUN
11.4

前期： 9.22 (SAT) ～ 10.16 (TUE)
後期： 10.18 (THU) ～ 11. 4 (SUN)
※作品の一部を展示替えいたします。

開館時間 10:00～18:00 [最終入館は 17:30] 休館日 水曜日

喜多方市美術館

KITAKATA CITY MUSEUM OF ART

□主催 喜多方市美術館 □協力 福島県立美術館、福島県立博物館、会津若松市教育委員会、可月亭庭園美術館、喜多方蔵座敷美術館、喜多方蔵の会、新北方美術倶楽部 □後援 福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、読売新聞東京本社福島支局、毎日新聞福島支局、産経新聞福島支局、河北新報社、NHK 福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしま FM、喜多方シティエフエム



◇交通アクセス

- ・JR 喜多方駅から約 1.5 km 徒歩 20 分 タクシーで 5 分
- ・磐越自動車道会津若松 IC から約 19 km 車で 25 分
- ・磐越自動車道会津坂下 IC から約 20 km 車で 25 分
- ・会津縦貫道喜多方 IC から約 4 km 車で 10 分

※喜多方プラザ文化センターの駐車場をご利用ください

観覧料

一 般	500 円 (400 円)
大・短・専・高	300 円 (250 円)
小・中学生	200 円 (150 円)

※() は 20 名以上の団体割引料金
※前期のチケット半券をご提示いただくと後期観覧の際、1 回に限り団体割引料金でご覧いただけます。

喜多方市美術館



〒966-0094 福島県喜多方市字押切 2-2
Tel.0241-23-0404 Fax.0241-23-0406
URL: <http://www.kcmofa.com/>

次回展覧会のお知らせ

館 蔵 展 12 月 15 日 (土) ～ 1 月 14 日 (月)

喜多方美術倶楽部と大正浪漫展 III

吉 齋藤 隆

喜多方美術倶楽部と大正浪漫展Ⅲ

結成から100年

大正から昭和にかけての一時期、喜多方を中心としたこの地方には文化人たちが訪れ、滞在しながら制作活動を行った記録が残されています。

その作家たちの活動を支援した喜多方美術倶楽部は、地方における芸術の普及のため、来遊する芸術家をもてなし、画会や展覧会を開催するなどの活動の中で、同倶楽部の財産を作り、将来的には美術館の建設を目指していました。会員は喜多方の素封家たちであり、山都町の田代家と別荘「南山荘」、そして喜多方の笹屋旅館などが芸術家たちの拠点でした。

その結成から100年の節目にあたる今年、同倶楽部の活動をあらためて振り返ります。1998年の「PartⅠ」、2003年の「PartⅡ」に続き、以前の展覧会では紹介できなかった作品を交えながら、関連人物や会津の芸術文化の歩みを紹介します。



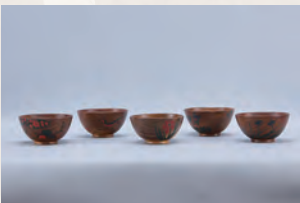
石井 柏亭 <一の戸川鉄橋図> 1914年 個人蔵



森田 恒友 <風景> 1918年 個人蔵



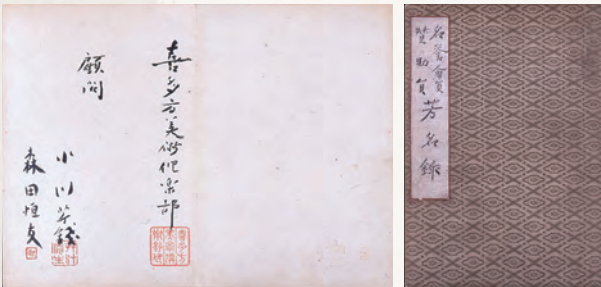
小川 芋銭
「龍門徳利」不詳 個人蔵



大野 麦風画、本方 秀麟画
「盃」不詳 個人蔵



近藤 浩一路 <山都絵日記>部分 1920年 個人蔵



<喜多方美術倶楽部名誉会員・賛助員芳名録> 1918年 個人蔵

喜多方美術倶楽部

明治末、会津若松有数の商家で美術愛好家、俳人としても知られた長尾為治（柳涯）の元に、俳句雑誌の挿絵を描いていた小川芋銭や竹久夢二が訪問しました。芋銭らは長尾宅に逗留し、作品の制作に応じるなど交流が始まったことから、彼らの仲間の画家たちも会津をはじめとする福島県内を訪れるようになります。

1911（明治44）年、山都の素封家・田代蘇陽は、長尾に芋銭を紹介されたことをきっかけに交流が深まり、芋銭や森田恒友などの洋画出身の文人画家への本格的な支援を始めます。田代はかねてから美術愛好家の親睦団体を喜多方に結成したいと構想していました。そして1918（大正7）年1月7日、笹屋旅館を経営する岩田大八や、醸造業を営む若喜商店の冠木喜与志といった商工業を営む美術愛好家らとともに、喜多方美術倶楽部を組織するに至ります。

喜多方美術倶楽部は、会津に来遊した画家を歓迎し、田代家や笹屋旅館を滞在制作の場として提供し、画会・頒布会を活発に行いました。

また、田代は画家たちへの支援と同時に、彼らに漆器の新意匠を依頼することで地場産業である漆器業の振興をはかりました。さらに、中央で出品された作品や喜多方で滞在制作された作品を購入することによって、倶楽部の財産を作り、文化による地域活性化と将来的な美術館の建設を目指していました。

1926（大正15）年、惜しくも倶楽部は解散しますが、喜多方美術倶楽部の高邁な理念と理想を持った活動は当時において先進的なものであり、会津地方の美術普及に少なからず影響を与えました。



堅山 南風 <羽衣> 不詳 個人蔵



山内 神斧 <豊神酒> 1917年 個人蔵

大正浪漫

明治時代以降全国的に工業や商業が大きく発展しはじめ、大正時代に入ると交通手段の拡大により都市化が促進されました。また、西洋文化や思想が流入したことで民主主義が台頭し、大衆の間で自由な思想が芽生え始めました。これらの出来事から華やかな大衆文化が生まれ、大正浪漫と呼ばれる時代を迎えます。

その影響は地方にも徐々に波及しました。喜多方においても明治末期から醸造業、製糸業が盛んとなりました。1914（大正3）年の岩越線（現磐越西線）の開通や、1918（大正7）年の喜多方中学校（現県立喜多方高等学校）設立など、町衆の経済力によって近代化の歩みを進めました。この頃に建てられた店蔵や座敷蔵は、現在の街並みの基礎となっています。

こうした背景から、明治後期から昭和初期にかけて竹久夢二や河東碧梧桐、横山大観などの芸術家・作家が会津地方を訪れ、美術交流が盛んとなりました。



笹屋旅館滞在中の
名取春仙（右）と岩田圭一郎

関連事業

ギャラリートーク

9月22日（土）10:30～

会 場：喜多方市美術館内
講 師：後藤 學（喜多方市美術館館長）
内 容：喜多方美術倶楽部と展示作品の解説
申 込：不要 ※当日観覧券が必要です。

ワークショップ「空想の喜多方旅日記をつくろう！」

10月8日（月・祝）13:00～16:00

会 場：喜多方プラザ第一会議室
講 師：久松 知子（アーティスト）、
川合 南菜子（アーティスト）
内 容：喜多方美術倶楽部の人々になったつもりで、
喜多方を訪れた芸術家との楽しい旅を想像
した絵日記を実際に制作します。
定 員：15人 ※要申込
対 象：小学6年生～大人
参加費：無料 ※展覧会鑑賞のため、当日観覧券が必要です。

学芸員による作品解説

10月6日（土）、20日（土）、11月3日（土）13:30～

会 場：喜多方市美術館内
内 容：展覧会内容と作品解説
参加費：無料 ※当日観覧券が必要です。

講演「喜多方美術倶楽部-大正時代と現代」

11月4日（日）15:30～

会 場：大和川酒蔵北方風土館昭和蔵
参加費：無料 ※申込み不要

第1部 『福島県内の美術をめぐる動き-大正時代』

講 師：増渕 鏡子（福島県立美術館学芸員）

第2部 『アーティストをとおしてみる喜多方』

講 師：久松 知子（アーティスト）

記念事業

喜多方にゆかりのあるアーティスト2人を招き、
アーティスト・イン・レジデンス事業と展覧会を
開催します。

久松知子「Return 喜多方美術倶楽部の絵」

**展覧会：11月3日（土）10:00～16:00
4日（日）10:00～20:00**

会 場：大和川酒蔵北方風土館天空回廊
観覧料：無料

滝沢達史「Return カマクラ図工室 山と海」

**展覧会：9月22日（土）～11月4日（日）
9:00～17:00**

会 場：蔵の里 イベント蔵
観覧料：一般・大学生 400円、小・中・高生 200円

シンポジウム / 教育とは何ですか？

9月23日（日）13:00～15:00

会 場：蔵の里 イベント蔵
参加費：無料 ※申込み不要
講 師：高松 智行（カマクラ図工室主宰）、
滝沢 達史（アーティスト）、他

お問い合わせ・申し込み 喜多方市美術館 0241-23-0404（水曜日を除く 9:30～17:30）